



成岩中学校だより

令和7年10月16日

大きな可能性を感じた3日間 ～1年生野外活動に参加して

9月23日（火）から25日（木）までの3日間、1年生は旭高原自然の家で野外活動を行いました。今回の野外活動は、4月から半年間をかけて準備を進めてきたもので、中心となった総務の皆さんは、責任感をもって役割を果たし、全員が充実した時間を過ごせる素晴らしい行事となりました。特にファイヤーでは、みんなで楽しもうとする雰囲気が会場全体に広がり、1年生のエネルギーと協力する姿勢を強く感じることができました。

まだ中学校生活が始まって半年ほどですが、入学当初と比べて生徒たちの成長をあらゆる場面で実感でき、大変うれしく思います。この3日間を通して、彼らの大きな可能性を改めて感じることができました。

これからも、生徒・職員全員で力を合わせ、さらに素晴らしい学年をつくっていかれることを心から楽しみにしています。



【ウォークラリー】



【キャンプファイヤー】



【光の舞】



【野外炊飯～カレーづくり～】



【体験教室】



【学年レク～ドッチボール～】

最近の行事から

3年 性の指導 (9/30 (火))

3年生の各教室で、市役所の保健師の皆さんにお越しいただき、「性」に関する指導を行っていただきました。16歳の女性の事例をもとに、命の大切さや男女の関わり方、心と体の成長など、誰にとっても身近で大切なテーマについて真剣に話し合う姿が見られました。

生徒たちにとって、自分のこれからの生き方や人との関係を考える大変貴重な機会になりました。



広島平和ツアー参加者の報告

本年度、半田市が主催する「広島平和ツアー」に、成岩中と青山中の生徒各4名が参加しました。8月21日から22日の2日間、平和記念資料館や原爆ドームなどを見学し、どの生徒も多くのことを感じ、学び、かけがえのない体験となりました。

その報告会が9月10日に行われ、その一部をここで紹介いたします。詳細については、半田市のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

石川 修也さん(2-4)

今回のツアーで僕は、「普通とは何か」を考えました。今のように安心して生活できることは、決して当たり前ではありません。戦時中の「普通」は、危険や不自由の中で生きることでした。「普通」は時代や状況によって変わり、それをつくるのは人間です。原爆投下もその一つだと思いました。このことから、今の「普通の生活」を大切に、感謝して過ごしたいと感じました。



原爆ドーム

山本 志歩さん(2-4)



原爆死没者慰霊碑

広島平和ツアーを通して、戦争や原爆が人々の命や日常を一瞬で奪った現実を深く学びました。資料館で見た写真や遺品からは、当時の悲惨さや苦しみが強く伝わってきました。また、被爆者の証言を聞き、「二度と同じことを繰り返してはいけない」という強い思いを感じました。今回の学びを自分の中にとどめるだけでなく、周囲に伝え、平和について考えるきっかけを広げていきたいです。

竹内 蒼真さん(2-5)

原爆について最初は他人事のように捉えていましたが、資料館や語り部さんの話を聞き、自分のこととして考えるようになりました。当時の人々の思いや「当たり前」が失われた現実に触れ、戦争の恐ろしさを実感しました。また、困難な時こそ前を向くことの大切さに気づきました。これからは、前向きな心を大切にしながら、自分にとっての「平和」について考えていきたいです。



原爆の影響でボロボロになった子供服

汐月 華さん(2-1)



原爆

被爆者の遺品

戦後80年を迎え、今の広島はとても平和に見えますが、世界にはまだ多くの核兵器が存在しており、真の平和とは言えません。私たちにできることは、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを次の世代に伝え続けることだと思います。また、核兵器や世界の現状に関心を持ち、実際に広島を訪れて自分の目で見て学び、感じたことを周囲の人にも伝えていくことが大切だと感じました。